

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2023年6月号

森のおくりもの 6

NO.371 The Gift from Woods

シロヒゲナガゾウムシ（ヒゲナガゾウムシ科）



鎧にトゲのような武器を装備したこの甲虫はゾウムシです。象のように口の長い口吻のためゾウムシなのですが、この種類はそうではないようです。また、名前にある「ヒゲナガ」ですが、残念ながら彼女の姿からはどこが長いのかは判別不可能で、オスの特徴である触角が体と同じくらい長いことからきているので、メスだけでは「ヒゲナガ」の名前にピンときませんね。私はオスの個体を見たことがないので、出会いを楽しみにしています。みなさんも素敵な出会いに巡り合えますように。【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『灯台下暗し(とうだいもとくらし)』

先月も高温傾向が続き、各地で5月としては観測史上最高の記録的な暑さとなったところが多くありました。仙台でも夏日が観測され、日によっては7月並みの気温になるなど、季節先取りの気候が続いています。

そんな中、竹林がいつもと違い黄色っぽく見えて、この暑さで弱ってしまったのかと思いました。調べると、竹の葉が黄葉しているのだとわかりました。竹は筍に栄養を費やすため、前もって葉を落とすしくみがあります。春に葉が黄色くなって落葉することから、俳句では「竹秋(ちくしゅう)」や「竹の秋」が晩春の「竹落ち葉」が初夏の季語となっているそうです。こんなにも身近な竹の性質に関心を持って見ていなかったことを反省すると共に、俳句の世界では昔から知られていて季語になっていることに感心しました。

それと、よく見ると花が咲いていることに気づきました。竹の花は、イネ科によくあるおしべとめしべだけの目立たない花で、遠くからでは咲いていてもわかりません。竹の花には開花周期があって種類で異なり、マダケやハチクでは60年とも120年ともいわれ、一斉に開花した後枯れるというのです。いつ咲くか予測できないし周期が長いため研究が困難で、解明されていないことが多いようです。最近、各地で開花が確認されていて、一生に一度見られるかどうかの稀少なものだと話題となったところもあるようです。


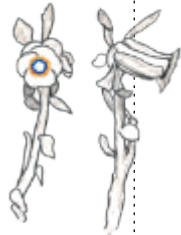


身近に珍しいものがあったとは気づかず「灯台下暗し」だと思いました。よく知られた言葉ですが、岬の燈台と勘違いされがちです。「菜種油などを灯す昔の照明具の下の辺りは、周囲よりも暗いことから、人はあまり身近なことにはかえって気がつかないことのとえ」です。きっと皆さんの身近な場所にも竹林があると思いますが、あまり認識されていないかもしれません。見かけたら、竹の花や竹落ち葉になっているか観察してみたいはいかがでしょうか。

かつては建築資材や生活用品の材料として重要な資源だった竹。現在は放置され荒れた竹林が問題になり、有用なのに厄介なものとなっていて寂しく感じます。身近な自然こそ大切にできたらと思います。【レンジャー：新田隆一】

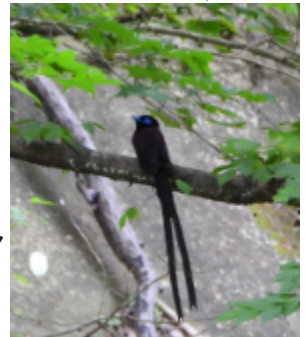


6月の生物ごよみ

植物




| | 5月 | | 6月 | 7月 | |
|-------------------------------------|------------|-----|---|--|-----|
| | 下旬 | 月上旬 | 中旬 | 下旬 | 月上旬 |
| マルバダケブキ <small>(マルバダケブキ)</small> | [Pink bar] | |  |  | |
| サイハイラン <small>(サイハイラン)</small> | [Pink bar] | | | | |
| ギンリョウソウ <small>(ネジキ)</small> | [Pink bar] | |  |  | |
| ネジキ <small>(ネジキ)</small> | [Pink bar] | | | | |
| イチヤクソウ <small>(イチヤクソウ)</small> | [Pink bar] | | | | |
| オカトラノオ <small>(オカトラノオ)</small> | [Pink bar] | | | | |

5月の中頃、観察の森周辺に訪れるサンコウチョウ。オオルリ、キビタキと並び、夏鳥として人気のある野鳥です。特にオスは長い尾羽が目立ち、森の中で鳴き声はするもののなかなか見ることが出来ません。『月日星ホイホイホイ』と聞こえることからサンコウチョウと名付けられました。そんなサンコウチョウを一度でも見ようとよく鳴き声をする『小鳥の森』で待っていました。1時間ほどすると目の前にひらりと雄のサンコウチョウが現れました。慌ててシャッターをきいたので証拠写真にしかならなかったのですが、うれしい出会いに感謝です。



小鳥の森に現れたサンコウチョウ

動物

| | 5月 | | 6月 | 7月 | |
|--|------------|-----|---|----|-----|
| | 下旬 | 月上旬 | 中旬 | 下旬 | 月上旬 |
| サンコウチョウがさえずる <small>(5月13日にさえずりを確認)</small> | [Pink bar] | | | | |
| カブトムシが現れる <small>(カブトムシ)</small> | [Pink bar] | |  | | |
| ゲンジボタルが夜空を舞う <small>(ゲンジボタル)</small> | [Pink bar] | |  | | |
| ニイニゼミが鳴き始める <small>(ニイニゼミ)</small> | [Pink bar] | |  <small>(昨年(2023年)の初鳴きは6月28日でした)</small> | | |

【レンジャー：齋 正宏】

※さえずり 繁殖期や縄張り宣言の時に出す鳥の美しい鳴き声。ただしさえずりと地鳴きの明確な区別はなく、一般的に複雑で長い鳴き声を「さえずり」と呼んでいる。

森の「あれこれ」



「ドロの宝石」

今の季節、出逢いたくなる昆虫がいます！小さくてキラキラと輝く甲虫の仲間…んん、名前、名前が出ない…。

やっと思い出したその虫は“ドロハマキチョッキリ”でした。



私の記憶力の悪さは置いといて、こんな宝石みたいな生き物に“どろ”とは…イメージが結びつきません(個人的な見解です)。ドロノキの葉を巻いてゆりかごにする(その中に卵を産む)ことがネーミングの由来のようですが、実は広食性で様々な植物を利用すること。観察の森ではイタドリの葉の上で見かけます(上の写真)。では“イタドリ”ハマキチョッキリにしてほしい(もはやわがまま)。それにしてもこんな小さな体ひとつで自分の何十倍もの大きさの葉を巻いて揺籃に作りかえてしまう技と力は圧巻です。チョッキリの仲間では大きい方ですが、それでも体長6mm前後。ほぼ実物大の写真を下につけました。大きさを実感できるでしょうか

観察の森の中でイタドリを探すとこの甲虫がいるかもしれません。まぶしい日差しの中では輝いて見えるはず。ルーペでのぞけば迫力満点です。ただし見つけても不用意に近づきすぎるとコロコロと自由落下して逃げられますよ。慎重に。

【レンジャー：木田秀幸】



森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*^^*)

枯れ木の方からコツコツと木をつつく音がします。木くずがパラパラ落ちてきたのでじつと様子を見てみると、……ひょこっと顔をのぞかせたのは、…コゲラです！。くちばしを半開きにしたままこちらの様子をうかがっているのでしょうか。互いに見つめあうこと数十秒。日差しが当たると色違いの羽毛で覆われた顔面がくっきりと見えてきました。鋭くはありますがとぼけたように開けたくちばしとは対照的な鋭いまなざしが印象的です。…(^^♪



コゲラは日本最小のキツツキで、大きさはスズメぐらいです。この写真では判断できませんが運が良ければ雄の後頭部にある小さな赤い羽根が見られます。3月から7月にかけて巣作りをするようで、このコゲラもその最中だったのでしょうか。直径3cmぐらいの巣穴の中に2個から5個の卵を産み、2週間ほどで孵化します。カメラを向けている私に「早くよそに行ってください」と言っているような気もしてきました。生き物にとって繁殖期は最も神経質になる時期。そっと立ち去ることにしました。…(^^♪ 【レンジャー:菅原幸彦】

6月のイベント&お知らせ

イベント

◆「おはよう野鳥かんさつ」

- 【日時】6月10日(土) 6:30~8:00
- 【対象】15名(中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】講師の案内で詳しい解説を聞きながら野鳥を観察します
- 【持ち物】双眼鏡、飲み物、帽子、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】6月6日(火)午前9時より電話受付(先着)

◆森のアート感さつ会「クモのアート」

- 【日時】6月17日(土) 10:00~12:00
- 【対象】小学3年生以上 中学生以下は保護者同伴 10名
- 【内容】網や体色の美しさなど芸術的な視点でクモを観察して楽しめます
- 【持ち物】飲み物、帽子、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】6月7日(水)午前9時より電話受付(先着)

◆「夜の森のかんさつ会」

- 【日時】6月25日(日) 19:00~20:30
- 【対象】小学生以上 20名
- 【内容】コウモリやホタルなど夜間に活動する生きものを観察します
- 【持ち物】飲み物、懐中電灯、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】6月8日(木)午前9時より電話受付(先着)

◆ガイドウォーク

- 【対象】どなたでも(中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】季節の自然を観察しながら散策します 時間までにお越しください
- 【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、虫よけ薬、歩きやすい服装と靴

ガイドウォーク

毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: 4日, 11日, 18日, 25日

時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00

※4月~11月は午前・午後の2回実施します

休館日



5日, 12日, 19日, 26日

毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

観察の森へのアクセス

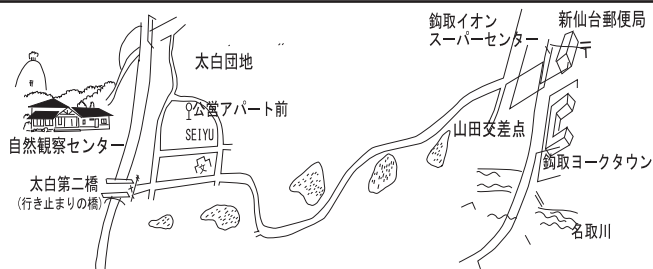


宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」
※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター